T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	
Title(English)	Affective Experience and Creative Group Activities in High Educational Learning Context
著者(和文)	KhuriaAmila
Author(English)	Khuria Amila
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11943号, 授与年月日:2021年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:梅室 博行,山室 恭子,齊藤 滋規,鈴木 定省,SEABORN KATELYN ADRI
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11943号, Conferred date:2021/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

（博士課程）

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第　　号		学位申請者氏名		AMILA Khuria	
論文審査 審査員		氏　名	職　名		氏　名	職　名
	主査	梅室博行	教授	審査員	SEABORN Katie	准教授
	審査員	山室恭子	教授			
		齋藤滋規	教授			
		鈴木定省	准教授			

論文審査の要旨（2000 字程度）

本論文は“Affective Experience and Creative Group Activities in High Educational Learning Context”（「高等教育の学習の文脈における感情経験と創造的グループ活動」）と題して、大学等高等教育機関でおこなわれるグループでの創造的学習に着目し、グループワーク中の学生の感情経験が学習の効果やモチベーションなど学生の心理的側面に与える効果を解明したものであり、全6章から構成されている。

“Chapter 1. Introduction”（第1章　序論）は本学位論文全体の序論であり、近年の高等教育の場でその重要性が注目されているグループ学習、特にデザイン思考などの創造的な学習の意義について述べるとともに、その成功のためには学習者の感情が重要な要因であることを指摘し、その視点での研究がこれまでなされていないという課題を明確にした。そして本学位論文全体の目的を提示し、本論文の構成を示した。

“Chapter 2. The Impact of Affect and Leadership on Group Creative Design Thinking”（第2章　感情とリーダーシップがグループによる創造的デザイン思考に与える影響）では、創造的なグループ学習としてデザイン思考の授業でおこなわれたプロジェクトを取り上げ、学習者の感情とリーダーシップがグループワークの創造的な成果に与える影響について実際のプロジェクトを調査し明らかにした。創造的な活動を発散的(divergent)な活動と収束的(convergent)な活動に分類し、また感情を感情価(valence)と覚醒水準(arousal)、リーダーシップをタスク指向と関係指向のそれぞれの変数に分けることで、感情やリーダーシップおよびグループワークの成果との間の関係を調べた。その結果覚醒水準が発散的思考の成果に影響すること、関係思考のリーダーシップがよりポジティブかつ覚醒水準の高い感情経験をもたらすことなどを明らかにした。

“Chapter 3. Changes in Affective Experiences in Convergent and Divergent Creative Group Works”（第3章　発散性および収束性の創造的グループワークでの感情経験の変化）では、創造的なグループワークでともに中心的な役割をする 2 つのタスクのタイプ、すなわち発散的タスクと収束的タスクに注目し、それらを連続しておこなう際の順序が学習者の感情経験に与える影響にどのような違いを生むかについて実際のデザイン思考の授業の中のプロジェクトにおいて調査し明らかにした。その結果、発散的タスクが感情の覚醒水準の変化に大きな影響を与えること、最初に行うタスクが感情状態により影響を与えることなどを明らかにした。

“Chapter 4. The Effect of Creative Tasks on Affective Experiences in Group Work”（第4章　創造的タスクがグループワークでの感情経験に与える影響）では、第3章で明らかにされた創造的タスクが感情状態に与える影響についてタスクの種類(発散的・収束的)と順序に交互作用があると予想し、実験的にそれら 2 要因の効果を検証した。さらに2章、3章で触れられなかったパフォーマンス指標であるグループワークへの満足度を取りあげ、創造的タスクの種類と順序の影響を検証した。その結果、感情状態(特に覚醒水準)と、満足度が収束的タスクに影響を受けること、2番目のタスクの後の感情状態や満足度が特に増加することなどを実証的に示した。

“Chapter 5. General Discussion”（第5章　全体的考察）では、第2章から第4章の結果を横断的に比較して考察をしている。特に章の間で一見矛盾するような結果についてその理由を議論し、本学位論文の一連の研究の限界と将来の研究への展望を述べている。

“Chapter 6. Conclusion”（第6章　結論）は学位論文全体の結論として、一連の研究の結果を総括するとともに、本研究から得られる知見を議論し、将来の発展課題について述べている。

以上を要するに、高等教育で重要とされるグループでの創造的学習の文脈において、学生の感情経験に着目し、感情経験と学習の効果やリーダーシップ、モチベーションなどとの関連を明らかにすることによって、感情の観点からのグループワークの設計や実施に対して知見を与えるもので、学術上・実践上の貢献が大きい。よって本論文は、博士（工学）の学位論文として十分価値あるものと認める。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。